

# プレス金型メーカーの増田鉄工所 員数管理装置を開発

## 正確性を確保してコンパクト化



プレス用金型メーカーの増田鉄工所(増田弘代表、大淵)は複雑な形状の部品でも正確に個数を管理できる「員数管理装置(カウンタマイスター)」を開発した。機械メーカーのウオーマー(沼津市)との共同開発。第一段階として自動車の製造過程で多用されている樹脂クリップ用向けの装置を開発した。従来品に比べて正確性を高めたほか、コンパクト化を図り可動

性も確保した。製造ラインに合わせてカウンタするスピードや個数も設定でき、価格も従来品の約6割の40万円程度に抑えることに成功した。樹脂クリップを使う製造ラインでは、作業員が一定個数の部品を1度に手にするため、部品をカウンタする装置が使われているが、複雑な形状の部品の場合は、センサーが二重にカウンタしてしまうなどの課題があった。

同社では、顧客からこまやかな課題を克服した装置の製作打診を受け、員数管理装置の開発に着手。開発した員数管理装置と増田代表

試行錯誤しながら福引などで使われる抽選器の仕組みを応用し、部品1個ずつを適切に送り出す仕組みを考案した。さらに部品送り出し部分と受け皿にセンサーを設けることで精度を高めた。設定した個数を送り出すと自動的に停止し、受け皿が空になったことを検知

することで送り出しを再開する。スイッチ、部品のストック箱、受け皿の位置は、製造ラインや作業効率性などによって変更することも可能という。同社では樹脂クリップを使う製造業などに売り込むほか、樹脂クリップと形状が似ているビスやねじといった

部品での利用も見込む。増田代表は「今後はいろいろな分野からさまざまな要望を頂き、要望に対応できる装置に改良していきたい」と話す。同社では、23日(水)から横浜市で開かれる「人とくるまのテクノロジー展」にも員数管理装置を出展してPRする。